

優勝、入賞、信州旋風を巻き起こした日本泳法のチームが

長野県水泳連盟会長を表敬訪問

8月に千葉国際水泳場で行われた「第70回日本泳法大会」の団体泳法競技で、強豪を抑え第3位に輝いた信州日本泳法研究会（水府流太田派）のメンバーと、同シニアクラス（60歳以上）で初優勝した神伝流松本同好会（神伝流）の代表が、2月27日（金）に長野県水泳連盟 小坂壮太郎会長を表敬訪問しました。長野県内で活動する両チームは、今回の日本泳法大会において多くの種目で入賞を果たし、小坂会長から労いの言葉をいただきました。



信州日本泳法研究会の両角さんは、「強豪ぞろいの中、練習の成果を発揮できて良かった」また、林さんは「十分に練習して臨んだが緊張で失敗する場面もあり、もっと精進しなくてはいけないと思った」と次への決意を伝えていました。

小坂会長からは、「大健闘お疲れさまでした」と全国大会での健闘を称えていただきました。そのうえで、「日本泳法の立ち泳ぎなどはASや水球にもつながっている技術があると思うがいかがか」といった専門的な質問もあり、鈴木さんが「強豪チームの中には日本泳法をベースに練習をする中で、選手の適性を見極め、競泳、AS、水球と種目を決めていくところもある」と説明すると、小坂会長からは「日本泳法がもっと知られて、広がっていくと長野県の水泳全体にもいいでしょうね。サムライスイミングという呼び方で、外国の方にも知ってもらえると面白い」と更なる発展を期待する激励をいただきました。



らえると面白い」と更なる発展を期待する激励をいただきました。

団体泳法競技は5人一組の団体戦で、各チーム一人ずつが対戦し、13流派（日水連が認めている現存する日本泳法の流派）の遊びの完遂度や水との調和などを観点に勝敗を決める競技です。5人が対戦して勝ち数を競い、3人以上が勝ったチームが「勝ち」となります。

信州日本泳法研究会は、1回戦○5-0、2回戦○4-1、3回戦○3-2と勝ち上がり、準決勝●1-

4と僅差で敗れ、3位決定戦では全国の精鋭が集まる中、○4-1で見事3位に輝きました。また、シニアクラスに出場した神伝流松本同好会は、くじ運に恵まれ2回戦からの出場で、準決勝○3-2、決勝○3-2と連覇をねらう経験豊富な練達者のチームが集うクラスでの初栄冠となりました。

その他、個人の泳法競技では、神伝流松本同好会の武田朋己さんが5位、ジュニアクラスでは、郷間千晴さんが秀（第3位入賞）、郷間結仁さんが優、また、横泳ぎ競泳男子の部では、信州日本泳法研究会の向山剛史さんが7位、女子の部では神伝流松本同好会の郷間千晴さんが優勝、信州日本泳法研究会の両角久美さんが6位、同じく鈴木公美さんが7位入賞と大健闘しました。

資格審査では、指導が可能となる「練士」に信州日本泳法研究会から1名、神伝流松本同好会から1名が合格し、県内の練士所有者は3名（水府流太田派2名、神伝流1名）となりました。

来年度の日本泳法大会は、8月に和歌山県で行われます。両チームは今年以上の成績を目指して精進していくことを誓っていました。